

■ごあいさつ

なぜ子どもは人形劇が好きなのでしょう？

どうしてあんなに無心になって人形劇を楽しめるのでしょうか？

たぶん、人形にはもちろん、森の木々にも、動物たちにも、石ころにまでも命や心があると信じているからです。

あまりに早く、科学万能の世の中に放り出されてしまった子どもたちの心は、乾いています。

やさしさは、人間や万物が生命の営みを共有していると感じる気持ちが源です。

人形劇のもつ不思議な力は、きっと子どもたちを空想の世界で遊ばせることでしょう。

私たちは子どもたちをもう少し長く、ファンタジーの世界にとどめておいてあげたいと思っています。



小太郎と龍の石

昔話『仙人のおしえ』より

小太郎は目の不自由なお母さんと寄りそって暮らしていました。ある日のこと、ふかーい山の奥に、すごーい仙人がいるとのうわさを聞いて、小太郎はさっそくお母さんの目の病気を治す方法を教えてもらうため、仙人を訪ねて旅に出ることにしました。お母さんはまだ幼い小太郎のことがとても心配でしたが、小太郎の強い気持ちとやさしさに負けて、お弁当を作って送り出してくれました。

勇んでスタスタと歩き出した小太郎は、長者屋敷の前を通りかかりました。長者さんに、仙人を訪ねて旅に出るとあいさつすると、ついでに娘さんの病気を治す方法を聞いてきてくれと頼まれます。小太郎は快く引き受けました。

さらにドンドン旅を続けると、村外れの家から赤ちゃんのおきな泣き声が聞こえました。女の人が出てきて言うことは、お乳が出ないので、お腹をすかせて泣いているのとどした。ここでも仙人にお乳の出る方法を聞いてきてくれと頼まれます。小太郎はこれも引き受けて、山の中にズンズンと入って行きました。

しばらく行くと大きな滝に突き当たりました。どうやらここで行き止まりのようです。とほうにくれた小太郎がメソメソ泣いていると、おそろしげな龍が現れます。でもその龍は見かけによらず気のいい龍で、滝につかまってしまつて、天に昇れなくて困っていたのです。小太郎は仙人に天に昇る方法を聞いてくるかわりに、ガケの上を上げてもらうことができました。

さらに旅を続け、険しい岩山をよじのぼり、小太郎はやつとのことで仙人に会うことができました。事情を聞くと仙人は小太郎に願いがかなう不思議な袋を三つくれました。でも、長者の娘さんとお乳の出ない女のひと、天に昇れない龍と、そしてお母さんの目の病気と、願いは全部で四つです。小太郎はトボトボと帰り道を下ります。

願いは四つ、袋は三つ……。はてさて、小太郎は一体どうしたらいいのでしょうか？



■上演の手引き

- ・会場に特別なステージは必要ありません。
- ・舞台には間口5.4m×奥行4.5m×高さ2.7m位のスペースが必要です。
- ・上演に必要な機材はすべて持ち込みます。
- ・電気の容量は20A(アンペア)程必要です。
- ・上演効果をあげるため暗幕をご用意下さい。
- ・上演時間は約60分で、準備に90分、片付けに60分程度かかります。
- ・1回の公演定員は150名までが適当です。
- ・上演料は、観客数と距離によって異なりますので、お問合せください。
- ・ご予約はお早めに……。

お問合せ・お申込みは・・・

とらまる人形劇団



とどき更新中↑

一般財団法人とらまる人形劇研究所

〒712-8014 岡山県倉敷市連島中央1丁目11-7

TEL 086-486-1305 E-mail:puppet@toramaru.link

FAX 086-486-1306 <http://toramaru.link>

■とらまる人形劇団とは...

2003年からの10年間、香川県東かがわ市にあった日本で唯一の人形劇学校“パペットアーク”。この学校は一般財団法人とらまる人形劇研究所によって運営され、様々な取り組みを行ってきました。「とらまる人形劇団」はその人形劇学校の卒業生によって2005年に財団附属の専門人形劇団として旗揚げし、2013年4月から岡山県倉敷市に拠点を移しました。今年で結成19年目を迎えます。人形劇表現の追求と、地域に根ざした活動を目指す「とらまる人形劇団」に、どうぞご期待下さい。